

特241

768

十二年
度

財團法人
福岡養
老院事
報



0039297000

0039297-000

特241-768

財團法人福岡養老院事報

福岡養老院

昭和12年度

昭和13

AGI

特241

768

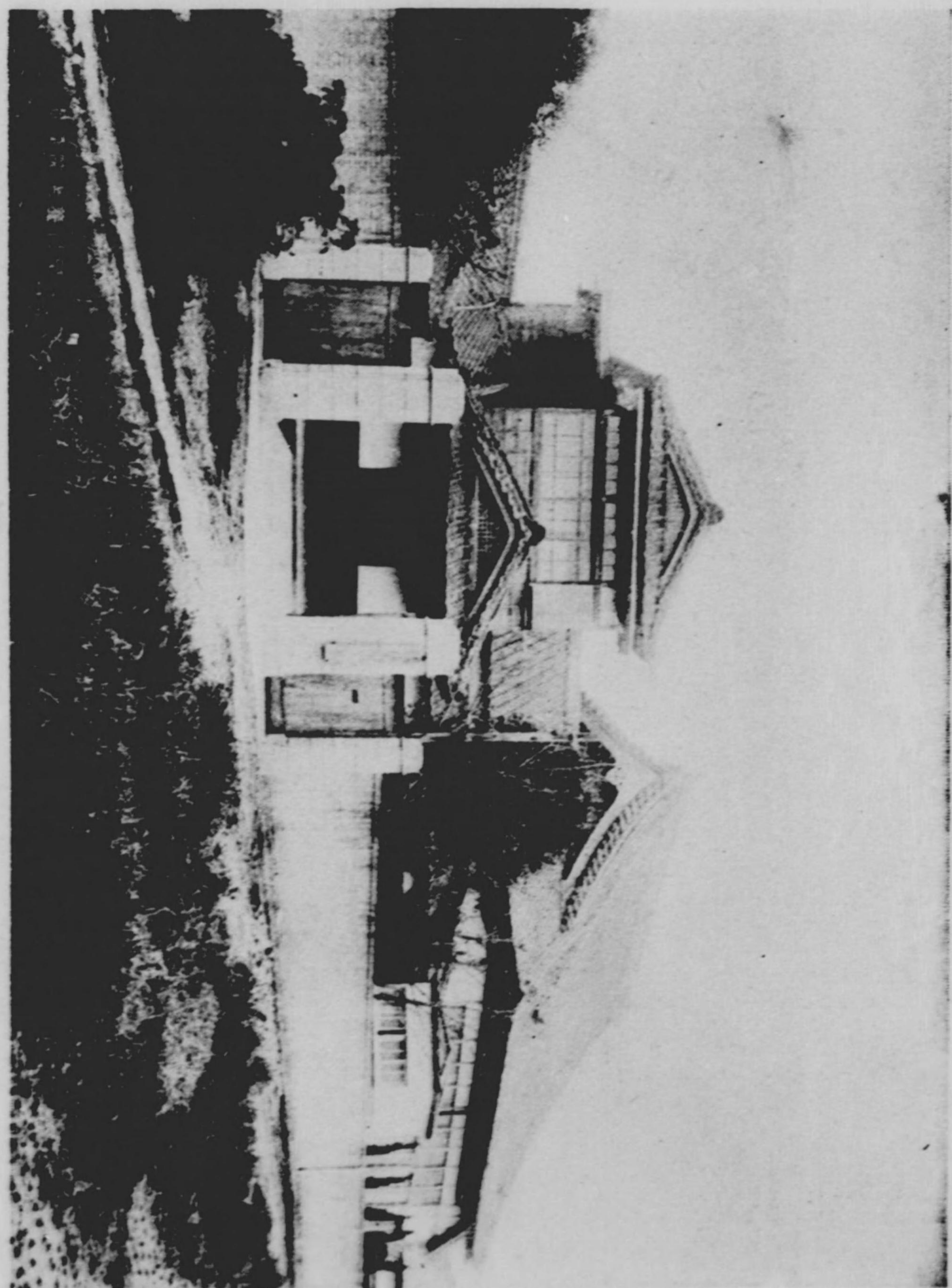
二十二年度

法財人團
福岡養老院事報

38

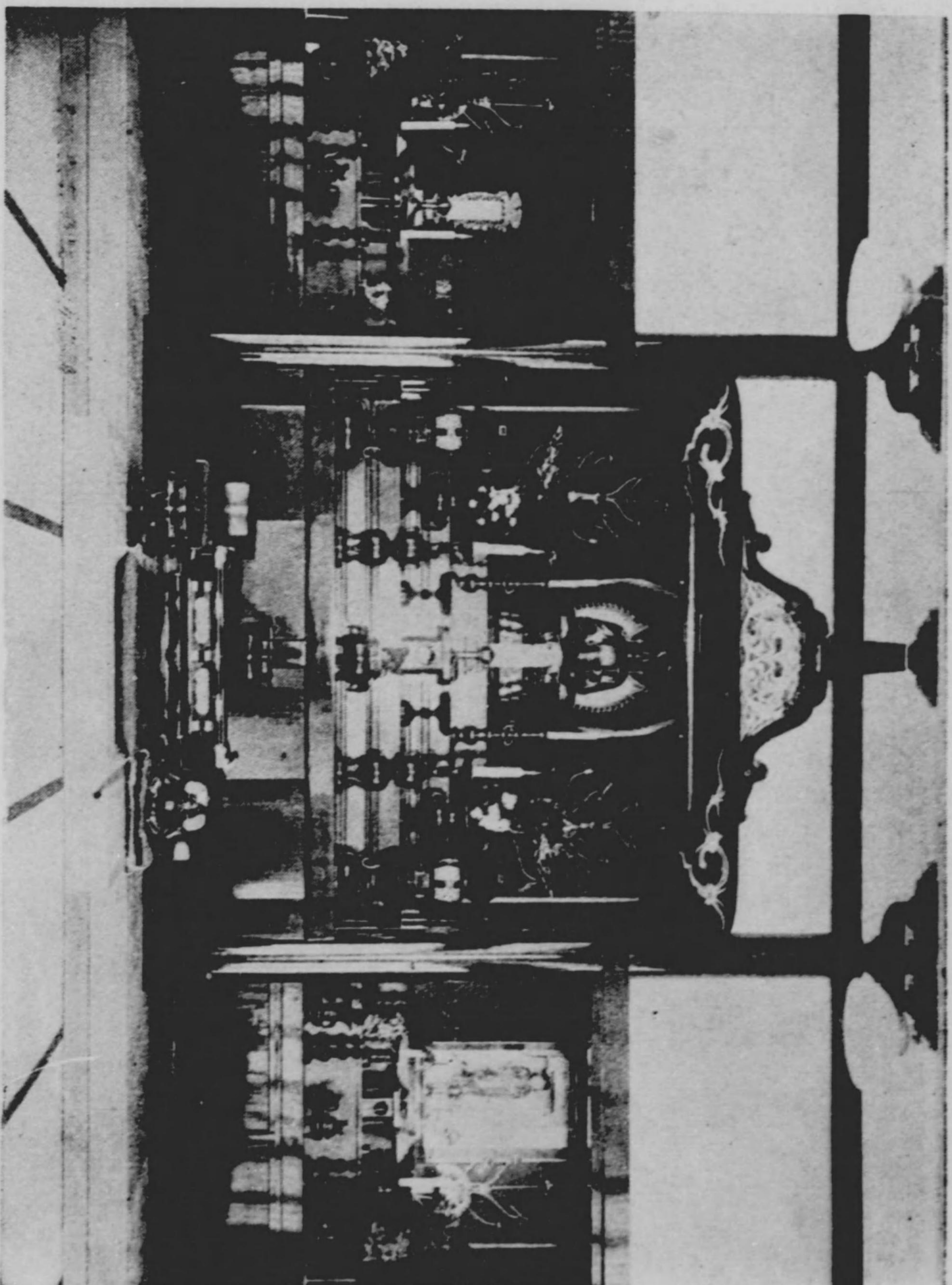
7

持241
768

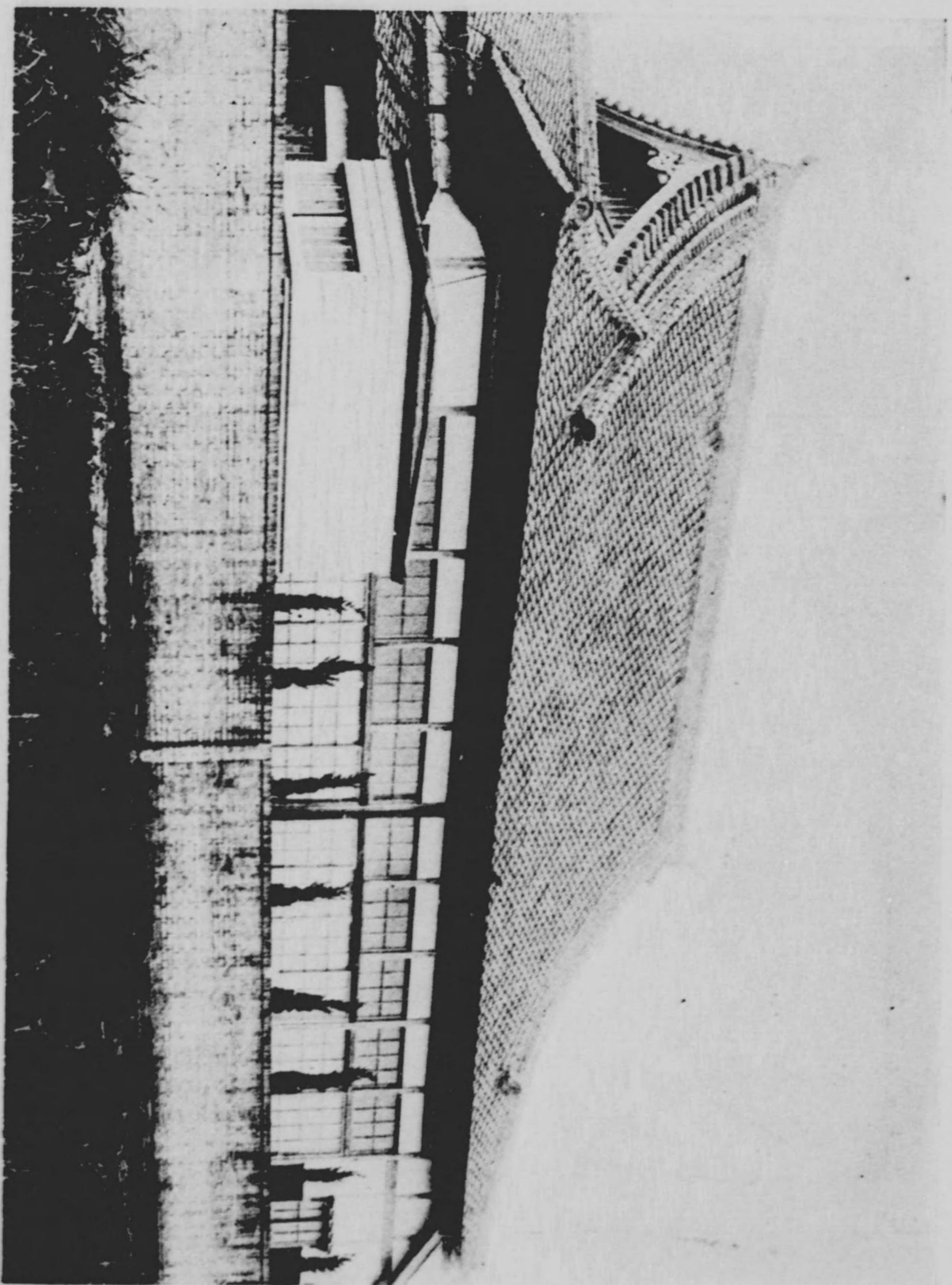


門

正

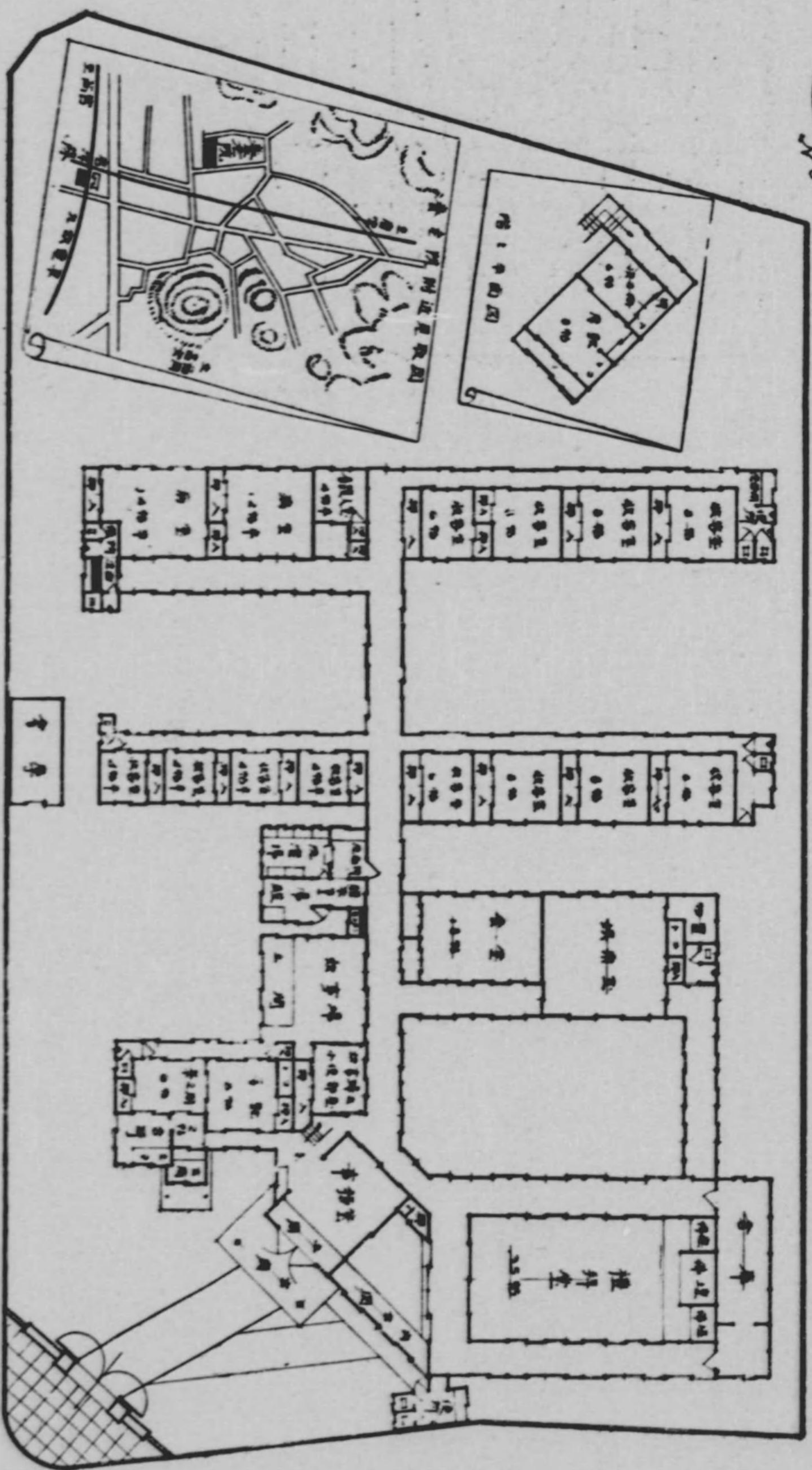


陣內堂拜禮



側面拜禮

福岡養老院々舎配置圖



御沙汰書

老ヲ養フハ歷朝ノ至孝ヲ天下ニ勸ムル所以ニシ
 テ窮ヲ賑ハスハ列聖ノ博愛ヲ兆民ニ獎ムル所以
 ナリ朕即位ノ禮ヲ行フニ臨ミ祖宗ノ遺訓ニ遵由
 シ養老賑恤ノ典ヲ舉ケシム其レ有司ニ命シテ敬
 ミテ朕カ意ヲ宣サシメヨ

昭和三年十一月十日





○福岡養老院事業概要

- 一、創立 大正十一年十二月一日
- 一、組織 財団法人（昭和二年九月七日認可）
- 一、位置 福岡市大字平尾六百三十番地
- 一、目的 自活する能はざる貧困無告の老廢者を收容し老後の餘生を安靜に送らしむるにあり
- 一、事業 本院は前記の目的を達するため左の事業を行ふ
 - ◇收容所を設け老後の安靜生活に必要な凡ての施設をなし左記事項の該當者に限り收容救済す
 - ◇年齢六十歳以上の自活能力なく扶養者なき貧困無告の老廢者にして入院希望の者但無病殊に傳染性疾患なきものに限る
 - ◇救護法の適用を受けたる者にして市町村長より收容救護を依托せられたる者
- 一、處遇 收容者中健康なる男子は庭園の掃除菜園の手入婦人は把針掃除等任意の作業によつて身體の運動をとらせ精神的には院長その他の有益なる法話を聽聞せしめて慰安を

與へ安靜なるその日くを送らしむ又病氣にかゝりたる時は十分に醫藥の手當をなし若し死亡すれば葬式は勿論後々の佛事供養も懇ろにして精靈を慰め聖世の恩惠と佛陀の慈悲に浴せしむ

一、維持 宮内省御下賜金、諸官衙慈善財團の補助金、助成金、特志寄附金品、月次寄附金品

勸募寄附金品基本金利子等

一、設備 敷地總坪數 九百二十五坪

建物總坪數 三百十三坪

禮拜堂 一 收容室 十二室

病室 二 (定員 四〇人)

一、入院手續 救護法に依り市町村に於て被救護者の收容救護を依託せられる場合は戸籍謄本又は

救護臺帳寫に依托書を添へ申込むこと

單獨又は紹介に依るものは入院願に戸籍謄本身體検査書添附提出せしめ調査の上入院を決定す

○沿革並に事業概況

一、沿革

大正十一年十二月福岡佛心會の事業として福岡市南港町に民家を借入れ創立、爾來入院希望者の増加に伴ひ擴張し、昭和二年九月、組織を財團法人に改めて經營し、豫て院舎敷地として購入してゐた福岡市大字原は、交通が不便であるから、これを賣却し、交通便利の地を選びて更に院舎建築の計畫を立て、現在の大字平尾に新敷地を購入し、官公署、慈善財團の補助助成、並に一般特志家の寄附により、昭和四年現院舎の新築を竣りて移轉、同七年一月禮拜堂の建設を以て第一回の事業計畫を終つたのであります然るに一特志家より禮拜堂建築の指定寄附に接したので十年二月よりこれが建築工事に着手し又同年八月病室建築の工事を起し共に十二月落成今日に至る

一、役員

顧問	古野彰
理事	高階瓏
同	津田利夫
	(副院長)

一、職

主 員 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

事

古 野 義 雄 佐 吉 古 南 山 福 新 山 太 大 樋 茂

藤 田 野 條 脇 井 井 崎 田 神 口 田

ハ ハ 義 タ ヨ ト シ ワ シ ュ 一 德 右 衛 門

ナ ツ 雄 カ ネ モ ゲ カ ナ キ 二

同 同 同 同 同 同 同 評 同 監 同 同 同 同 同

議

員 事

古 藤 金 谷 水 石 甘 谷 小 大 淵 祇 荒 新 梅

野 島 森 山 島 川 蔗 山 簇 隈 國 津 井 田

彰 長 隆 仙 劍 賢 良 忍 桃 仙 厚 長 琴 隆

威 和 樹 外 城 道 淳 法 陳 三 乘 淳 七 郎 全

一、昭和十三年度歳入出豫算

歳入

計	三	二	一	十	十	十	九
	月	月	昭和十三年	二月	一月	月	月
	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
	六七	〇一	一一	〇〇	一一	一〇	〇〇
	一一	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇一	一〇
	五七	一〇	一一	一二	〇一	一〇	〇〇
	四八二	三八	三八	三八	四一	四〇	四一
	一四、七三八	一、一九〇	一、〇九〇	一、二二〇	一、二七三	一、二四四	一、二四七

一、昭和十二年度事業成績

扶養者
扶養助手
炊婦
常備夫

古野

野

六

名名名ル

種別	四	五	六	七	八
	昭和十二年	月	月	月	月
性別	女男	女男	女男	女男	女男
入院	〇三	一一	二〇	〇〇	〇〇
退院	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
死亡	一一	〇二	〇〇	〇〇	〇〇
實人員	四〇	四〇	四二	四二	四二
延人員	一、二二一	一、二三四	一、二三〇	一、三〇二	一、三〇二
備考	前年度ヨリ越員 男一二 女二七				

第一款	財產收入	五八〇圓
第二款	基本金利息	五八〇
第三款	事業收入	一、二〇〇
第四款	一、依託救護交附金	一、二〇〇
第五款	一、縣補助	七〇〇
第六款	二、市補助	四五〇
第七款	一、助成	二五〇
第八款	二、助成	九五〇
第九款	一、篤志寄附	九五〇
第十款	二、托鉢寄附	四、一五〇
第十一款	一、前年度繰越	三、五五〇
第十二款	二、前年度繰越	六〇〇
第十三款	雜收入	一、三〇〇
第十四款	雜收入	一、三〇〇
第十五款	雜收入	二〇〇
合計	歲入	九、〇八〇

第一款	事務所	二、一五〇圓
第二款	一、諸給	一、五八〇
第三款	二、需用	五七〇
第四款	一、賄賂	四、五一八
第五款	二、被服	三、一六八
第六款	三、醫藥	一二〇
第七款	四、備品	三〇〇
第八款	五、消耗	一〇〇
第九款	六、慰安	四八〇
第十款	七、葬祭	一〇〇
第十一款	雜支出	二五〇
第十二款	雜支出	六五〇
合計	歲出	九、〇八〇

一、收容者狀況調

第一、家屋管理費	四〇〇
第二、諸告稅	五〇〇
第三、廣告費	六〇〇
第四、雜支	一四〇
第四款繰戻金	六〇〇
第五款繰戻金	六〇〇
第五款建築費	九六二
第五款一、敷地購入費	五三〇
第五款二、煉瓦塀築造費	四三二
第六款豫備費	二〇〇
第六款一、豫備費	二〇〇
歲出計	九、〇八〇

一、性別		年 齡		一、同 健 康 調	
昭和十三年三月末現在		昭和十三年三月末現在		昭和十三年三月末現在	
男	女	男	女	男	女
六十歲以上	二	二	〇	三	三
六十五歲以上	一	六	〇	〇	六
七十歲以上	四	一	三	一	三
七十五歲以上	〇	五	一	三	〇
八十歲以上	三	九	三	〇	三
八十五歲以上	一	二	二	四	二
九十歲以上	〇	〇	〇	〇	〇
合計	一一	二七	一一	二七	三三
合計	三三	三八	三三	三八	三三

一、現在收容者在院年月調		一、最近五ヶ年死亡者在院調	
昭和十三年三月末現在		自昭和十三年三月末至昭和十三年四月末	
在院年月	男	在院年月	女
六ヶ月未満	三	六ヶ月未満	六
計	六	計	一三

八	七	六	五	四	三	昭和 二	一五	一四	一三
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
九四	六四	七七	一九	六七	六二	六四	三五	二二	三六
一一	一二	一〇	〇〇	二〇	二二	一〇	一〇	三二	一〇
九七	三四	一六	四五	一四	四四	五三	五三	一一	一三
二五	三〇	三〇	三四	二三	一七	二一	二〇	二一	一四

一、創立以降入退成績

(自大正十一年十二月 至昭和十三年三月)

大正 一一	昭和 一一	年次 種別	入 院	退 院	死 亡	年 度 末 現 在
女男	女男	別性	五七	〇一	〇一	一〇

右ノ内 最長年 月	合 計	五 ヶ 年 以 上	五 ヶ 年 未 満	四 ヶ 年 未 満	三 ヶ 年 未 満	二 ヶ 年 未 満	一 ヶ 年 未 満
四年一月	一一	〇	一	〇	一	五	一
十年十一月	二七	二	四	三	四	八	三
	三八	二	五	三	五	一三	四
右ノ内 最長年 月	合 計	五 ヶ 年 以 上	五 ヶ 年 未 満	四 ヶ 年 未 満	三 ヶ 年 未 満	二 ヶ 年 未 満	一 ヶ 年 未 満
七年七月	三三	二	四	四	五	五	七
六年十月	三〇	四	二	三	四	一一	〇
	六三	六	六	七	九	一六	七

計	九	一〇	一一	一二
女男	女男	女男	女男	女男
一〇九 九一	六一 六七	一一 一九	一一 〇六	一一 八一
一一 七四	一一	一一	一一	〇二
六六 五六	五七	四八	六四	六六
	三八	三九	三四	三〇

○謹告

聖旨優渥紀元ノ佳辰ニ際シ左記ノ通り御下賜ノ恩命ニ浴シ恐懼感激ニ堪ヘマセン
 茲ニ謹ンデ御報告申上ゲマス

財團法人 福岡養老院

今般其事業御獎勵ノ思召ヲ以テ金一封下賜候事

昭和十三年二月十一日

宮内省

財團法人 福岡養老院

社會事業ニ關シ從來盡力スル所尠カラス今後尙一層淬勵シテ效果ヲ收メンコトヲ
 望ム依テ茲ニ獎勵金ヲ下附ス

昭和十三年二月十一日

厚生大臣正三位勳二等 木戸幸一

一、助成金

- 金四百圓 岩崎家助成金
- 金二百圓 三井報恩會助成金
- 金四十圓 曹洞宗務院助成金

一、縣市補助金

- 金四百圓 福岡縣補助金
- 金二百圓 福岡市補助金

一、篤志金品寄附芳名 (自昭和十三年四月三十一日)

- 一金五圓 並菓子三函 大名町 松本健次郎殿
- 御子息殿三回忌供養
- 一金七拾錢 島川 ありさ子殿
- 一金壹圓 露切町 熊谷友次郎殿
- 一金貳圓五拾錢 福岡佛教婦人會殿
- 一金壹圓 安德村主婦會殿
- 一金壹千貳百圓 西職人町 荒津長七殿
- 一金貳百四拾九圓參拾五錢 住吉町人參畑 梅田隆全殿
- 一金參圓六拾錢 平尾 竹田岩雄殿
- 一金參圓六拾錢 須崎裏町 中野愛子殿
- 一金壹圓五拾錢 荒戸二番丁 永田早苗殿
- 一金拾圓 天神町 磯部熊太郎殿
- 一金參圓四拾錢 門司驛長殿

一金壹圓六拾錢	久留米驛長殿
一金壹圓七拾壹錢	戸畑驛長殿
一金壹圓〇六錢	若松驛長殿
一金拾貳圓 御母堂殿年回供養	山田まき子殿
一金壹圓拾錢	德正寺婦人會殿
一金五拾錢	八幡驛長殿
一金壹圓五拾錢	坂本均殿
一金貳圓	德榮寺御夫人殿
一金五圓	神原方面委員會殿
一金貳圓	山田みつ子殿
一金參拾圓 釋尼秀琛大姉供養	慶田稔殿
一金拾圓	籠宮徳子殿
東京市大森區雪ヶ谷町	金森隆樹殿
一金貳拾圓 御母堂殿菩提	朝日館敬老會殿
平尾大通	白木伊太郎殿
新柳町	
三井郡三國村長	

一金參圓 並衣類澤山	春吉高畑本町	石橋卯三郎殿
一金五圓	店屋町	速水はな子殿
一金拾圓	藥院堀端	飯田すみえ殿
一金貳拾圓	中土居町	水上作次殿
一金參拾圓	東中洲	矢野そで子殿
一金拾圓 顯照院大活靖堂居士菩提	糸島郡雷山村	有田敬三殿
一金拾圓	地行東町	時枝茂登子殿
一金壹圓八拾錢	香椎	藤崎幸子殿
一金拾圓 翠雲祥獄居士供養	西新町三丁目	山口彌太郎殿
一金壹圓	若松市東二島塚山	香山佐太郎殿
一金壹圓八拾錢	東警固	片山初子殿
一金貳圓	濁り池	安部みね子殿
一金參拾五圓 御長男正殿香奠返し	大名町四丁目	角野正起殿
一金七圓		福岡縣女子專門學校校友會殿
一金參拾圓 御母堂殿ノ御遺志ニ依リ	東小姓町	小山豊子殿

一金壹圓	極樂寺町	松本	きし子殿
一金五圓	柳橋	白杵	良太郎殿
一金五圓	朝倉郡星丸	本田	はな子殿
一金壹圓	地行西町	今村	とよ子殿
一金壹百圓	極樂寺町	中島	徳松殿
一金五圓	大學通	三苦	啓次郎殿
一金五圓	平尾	谷口	一心殿
一金壹百圓	慈薰院温譽淨心大姉香典返	南條	孝子殿
一金拾圓	店屋町	中野	常世殿
一金貳拾圓	西新町	渡邊	吉貫介殿
一金壹圓	箔屋町	同邊	吉次郎殿
一金壹圓	崇福寺新町	花田	はつえ殿
一金五圓	同	稻田	ふで子殿
一金五圓	唐津市	高取	九郎殿
一金拾圓	奈多	山田	まさ子殿
一金貳圓	奈多	婦人會	有志殿

一金五拾圓 並菓子一函 戸畑市中原 安川 寛殿

清淳院釋英賢明德大居士三回忌供養

一金參拾圓	御尊父殿菩提	西橋口町	古野	種次郎殿
一金貳圓		中庄	江口	たか子殿
一金拾圓		西新町	奥田	やす子殿
一金貳圓四拾四錢		吉塚	驛	長殿
一金貳拾圓	御令閨殿菩提	箱崎網屋町	坂本	久三郎殿
一金五拾圓	御尊父殿菩提	西通町	山口	奎平次殿
一金拾貳圓		東警固	藤井	喜典殿

清淨覺釋秀道居士十七回忌供養
釋妙教信女一回忌供養

一、丹前三枚、毛布一枚、蚊帳一張、袴一枚、布團ガワ一枚分、浴衣四枚
シャツ十一枚、胴着一枚、ボンシン一枚、首巻二筋、外衣類
鏡一個、盆一枚、茶瓶一個、汁椀、小ツギ外いろく

一、生豆腐百二十丁 毎月十丁宛 大工町 長野喜三次殿
平尾 江藤千鶴子殿

一、菓子 二函

福岡市佛教聯合會長

圓日駿逸殿

一、折詰四十六個 才花見ノ際

大學通

星華婦人會殿

一、才花見辨當澤山

大學通

三苦なを子殿

一、丹前一枚、ズボン下二枚、襦袢三枚、張上物三枚、筒袖一枚、帶一筋、小切澤山

大工町

長野喜三次殿

一、菓子四十五包

渡邊通四丁目

國防婦人會殿

一、夏橙百二十個

極樂寺町

松本さし子殿

一、掛布團二枚、敷布團二枚、丹前二枚

濱ノ町

松尾ゆきの殿

一、漬物 澤山

鳥飼

松本阜月殿

一、鏡餅 一個

地行東町

原田徳次郎殿

一、洋服一着、ズボン下一枚、足袋四足

春吉六番丁

石橋殿

一、羽織一枚、單衣物二枚、浴衣四枚、襦袢五枚、帶一筋、前垂一枚、信玄袋一個

春吉

下川義夫殿

一、煎餅 澤山

須崎裏町

江口近次郎殿

一、清酒 二升

奈良屋町

内田治助殿

一、掛布團四枚、敷布團三枚、帶三筋、襦袢七枚、枕一個

春吉六軒屋

田村繁治殿

一、鮮魚 澤山

大學通

三苦なを子殿

一、羽織一枚、帶一筋、前垂三枚、襦袢八枚、才腰一枚

春吉高畑本町

石橋卯三郎殿

一、醬油諸味一桶

東唐人町

立石善次郎殿

一、飴 澤山

大學通

三苦なを子殿

一、素麵 一函

中土居町

水上作次殿

大寂定釋妙珠信女十七回忌供養

一、白砂糖瓶入一個

渡邊通四丁目

秀巧社殿

一、白砂糖 一函

尾

柴藤行男殿

一、味噌漬 一函

尾

竹田岩雄殿

一、白砂糖 一函

尾

埴生正俊殿

一、白砂糖 一函

尾

松本竹多殿

一、晒天竺二反、晒木綿三反、白紐五把

星華婦人會殿

- 一、水蜜桃 一函 平尾 澁江 與平殿
- 一、西瓜 一個 平尾 石井 正人殿
- 一、素麵五把、茄子澤山 平尾 野中殿
- 一、白砂糖 一函 東湊町 栗山みち子殿
- 一、南瓜 百斤 眞砂町市場 平井常吉殿
- 一、オ結ビ 澤山 八幡防護團殿
- 一、茄子五十本 平尾 江藤千鶴子殿
- 一、煮豆 澤山 大學通 三苦なを子殿
- 一、オ萩餅並饅頭澤山 材木町 安國寺殿
- 一、單衣物一枚、袷一枚、シャツ一枚、ズボン下一枚 荒戸松土手 中島七太郎殿
- 一、紋付羽織一枚、綿入一枚、風呂敷共 荒戸三番丁 鬼塚殿
- 一、茶 一罐 西新町 大串陸子殿
- 一、單衣紋付二枚、單衣物四枚、羽織一枚、コート二枚、袷一枚、胴着一枚 襦袢一枚、丹前表一枚 春吉四十川 中川孝一殿

一、單衣物五枚、腰卷五枚、袷一枚、襦袢四枚、小布團二枚、外小切

- 一、銀杏 四升 春吉前新屋 尾西要太郎殿
- 一、甘酒並壽司 澤山 大學通二丁目 三苦なを子殿
- 一、甘酒並壽司 澤山 藥院出口 和田えい子殿

深見彦次郎氏御佛前

- 一、サンデー毎日八冊、週刊朝日五冊 春吉四十川 羽栗さとし子殿
- 一、饅頭 一函 惠比須町 細川兵市殿
- 一、ボンシン二十枚 東中洲 宮田せろ子殿
- 一、煮豆 澤山 大學通 三苦なを子殿
- 一、雜誌七冊、レコード二十六枚 春吉七番丁 岩城玄二殿
- 一、オ結ビ 澤山 春吉防護團本部殿
- 一、袷一枚、足袋三足 東港町 栗山みち子殿
- 一、丹前二枚、袷四枚、張上物九枚、浴衣四枚、袖無三枚、筒袖一枚、襦袢一枚、前垂二枚、小切澤山 箕子町 吉村なか子殿
- 一、毛布一枚、同カバー一枚、布團二枚、敷布團二枚、丹前二枚、敷布一枚、枕二個

一、饅頭六十玉、蒲餅十本、醬油一升、削節澤山	藥院本庄	平島つねを殿
御子息殿年回供養	藥院西川端	野守とく子殿
一、煙草ナデシコ大袋三個	新柳町花屋樓	志岐尙宏殿
一、足袋 澤山	白金町	原田なか子殿
一、鶉豆 三升	東港町	栗山みち子殿
一、ネル腰卷四十一枚	平尾	星華婦人會殿
一、御風呂敷一枚	西職人町	某 埴生正俊殿
一、羽織一枚、袴一枚、ジャケツ一枚	極樂寺町	荒津長七殿
一、鏡餅一重、小餅百六十個	藥院若宮町	松本きし子殿
一、文旦八十個	平尾	柴藤行男殿
一、木炭 一俵	平尾	城戸磯吉殿
一、粕漬 一函	平尾	中村徳次郎殿
一、蜜柑 一函	平尾	
一、砂糖 一函	平尾	

一、燒飛魚澤山	平尾	竹田岩雄殿
一、菓子 澤山	住吉	江藤とよ子殿
一、砂糖 一函	平尾	松本竹多殿
一、鏡餅一重、小餅百個	住吉川添	大神ゆき子殿
一、ネル襦袢九着	東京市	三井報恩會殿
八十歳以上ノ高齢者慰藉ノタメ		
一、蒲餅 一函	平尾	野田中殿
一、タオル半打、草箒二本	平尾	野田中殿
一、鏡餅 三呷	材木町	安國寺殿
一、單衣羽織三枚、袴羽織一枚、袴二枚、單衣物三枚、帶二筋、袴天一枚、袖無一枚	東京市	積文館殿

一、鏡餅 七個	高宮	貝島健次殿
一、白米五俵 御母堂殿追福ノタメ	春吉七番丁	平野泰助殿
一、餅 澤山	西新町	金龍寺觀音講殿
一、金柑子澤山	西新町	栗田いわ子殿

一、餅 澤山	大 學 通	長 圓 寺 觀 音 講 殿
一、煮餛飩 澤山	香 椎	三 苦 な を 子 殿
一、蜜柑 澤山	大 學 通	藤 崎 幸 子 殿
一、煮豆 澤山	田 川 郡	三 苦 な を 子 殿
一、餅 一 呷	田 川 郡	糸 田 婦 人 會 殿
一、餅 二 呷	田 川 郡	金 川 小 學 校 殿
一、髮油 一 瓶	柳 原 郡	金 川 小 學 校 殿
一、鯛蒲鉾 澤山	大 學 通	三 苦 な を 子 殿
一、蜜柑一籠、菓子二折、風呂敷一函	西 中 洲	お 知 嘉 殿
一、菓子三十八包 亡御子息年回供養	平 尾	谷 口 一 心 殿
一、菓子三十函	福 岡 市 役 所 内	福 岡 市 在 郷 軍 人 聯 合 會 殿
一、寢臺一脚、藁布團一枚	福 岡 西 町	相 葉 殿
一、菓子 二函	新 柳 町 大 門 通 上 花 園 町	末 友 廣 清 殿

一、贊助會員並毎月慈善米寄附芳名 (自昭和十二年四月三十一日 至同十三年三月三十一日)

荒戸二番丁	永 田 早 苗 殿	同	小 藤 圓 太 殿
須崎裏町	中 野 愛 子 殿	同	高 柴 つゆ子 殿
下警固	片 山 初 子 殿	同	小 鹽 熊 次 郎 殿
西新町	石 橋 御 夫 人 殿	同	澁 谷 文 子 殿
同	西 川 虎 次 郎 殿	同	樋 口 邦 彦 殿
同	栗 田 い わ 子 殿	同	石 田 耕 造 殿
同	大 串 利 嗣 殿	同	湯 川 又 雄 殿
今川橋海岸	吉 村 猪 久 江 殿	同	内 田 し げ 子 殿
福岡西町	高 瀬 留 吉 殿	新 大 工 町	秋 山 み ね 子 殿
同	間 部 長 玄 殿	同	原 山 の ぶ 子 殿
同	德 重 辨 太 郎 殿	同	佐 藤 は な 子 殿
同	金 龍 寺 殿	同	佐 藤 齒 科 醫 院 殿
鳥 飼	松 本 景 殿	地 行	藤 川 か ね 子 殿
同	後 藤 七 郎 殿	同	大 川 英 太 郎 殿
同	八 田 子 裙 殿	同	今 泉 ふ き 子 殿

同 高畑
同 簗島
同 中島町
同
同
同 東中洲
同
同 西中洲
同
同
同
同
同
同
同
同 平尾
同
同
高 宮

下澤 ひろ子殿
大神 熊次郎殿
牛尾 量一殿
兒島 善四郎殿
兒島 善一郎殿
兼重 謙祐殿
矢野 まさ子殿
山脇 豊三郎殿
疋田 直太郎殿
河野 けい子殿
相浦 醫院殿
原田 富吉殿
浴根 ゆき子殿
秋根 昌美殿
猪俣 御夫人殿
伊藤 八郎殿
名島 正殿
兒島 貞五郎殿

野間
春吉
同 寺町
同 六番丁
同 川添
同 七番丁
同
同 袋町
同 新屋
同
同 六軒屋

浦上 昌樹殿
河原田 なを子殿
戸島 すが子殿
柴田 みね子殿
桐山 壽殿
下川 義夫殿
西島 善吉殿
浅川 吉平殿
岩城 玄二殿
永田 しずえ殿
樋口 一二殿
南波 とも子殿
平井 勝彦殿
吉崎 徳太郎殿
木原 信治殿
尾西 要太郎殿
石井 かぬ子殿
田村 繁治殿

同 高畑
同 瓦町
同
祇園町
同
櫛田前
箔屋町
土居町
店屋町
片土居町
川端町
麴屋町
掛町
藏本町
同
蓮池町
下西町
同

兒島 郁之助殿
柴田 忠次郎殿
古賀 しげ子殿
津田 孝一殿
高木 孝太郎殿
櫛田 女學校殿
松岡 治助殿
森下 御夫人殿
速水 晋次郎殿
筒井 藤三郎殿
後藤 博多織店殿
山崎 わか子殿
高橋 時計店殿
太田 しな子殿
太田 勘太郎殿
大野 清子殿
速水 與三郎殿
森友 七殿

同 官内町
同 大濱二丁目
同 上對馬小路
同
同 中對馬小路
同
須崎町
倉所町
普賢堂町
同
同
同
同
同
同
同
同
同

西頭 伊吉殿
安永 紙店殿
上田 材木店殿
新井 しげ子殿
小堀 御夫人殿
岸副 御夫人殿
岩崎 健吾殿
淵上 政次郎殿
筒井 芳太郎殿
小林 芳太郎殿
尾崎 良祐殿
吉住 千代子殿
上杉 大治殿
島田 はつ殿
吉武 ふち子殿
朝田 しか子殿
關 秀男殿
中野 貞次郎殿

同 吉住 博殿
同 原田 とき子殿
同 金森 虎次郎殿
同 藤野 繁殿
北舟町 原田 はる子殿
西方寺前町 原田 あい子殿
萱堂町 福田 きく子殿
蓮池町 福田 つね子殿
釜屋町 新三 浦殿
舊柳町 永野 彌三殿
水茶屋西門通 藤井 きみ子殿
同 二葉町 高橋 たき子殿
水茶屋町 坂本 均殿
同 坂本 あい子殿
上魚町 松本 均殿

中魚町
下桶屋町
御供所福山町
石堂町
大學前
東公園
同
馬出
同
同
同
同
同
同
同
同
同

勝木 研二殿
吉永 甚太郎殿
熊谷 義太郎殿
高波 辰次殿
水野 咲子殿
一方 亭殿
添田 きみ子殿
柴田 福三郎殿
大穂 きみ子殿
箱島 甚一郎殿
妙徳 寺殿
南川 豊次郎殿
坂本 久三郎殿

三六

○養老に付御願

當院は御聖旨を奉戴し、佛心を流漏して年老ひて體は衰弱し自活の途は無くそれに身寄りもない
憐れな老人の爲に濫かい扶養と慰藉とを惠み、明るく氣持よく餘生を送らせ度いと私共はそれ等の
人々の味方となりて努力はしてゐますが到底少數の者の微力の及ぶ所のものでは無いのです。
凡そ賑恤救濟の事業は多岐多様であります中にも、取わけ寄る邊なき老人救護事業は惠恤の第一
義でありますが又極めて難事であり、併し老年者を敬愛することは聖旨を奉ずる我が國民性の
美德であり、又お互に共存する以上同情愛護せねばならぬと思ひますので、御幸福な皆様の御同情
にすぎりお力添へをお願い致したのであります。

○あなた方のお味方を

御慈愛溢る、皆様方へこの事業のお味方を頂き左のお力添へをお願いしつゝあるてあります。
どうぞお一人で多くの御加入を。
金ならば
一口毎月拾五錢……以上何口でも

お米ならば

一口毎月五合……以上

○右勝手ながら両方とも願ひが出来ますれば誠に仕合に存じます

○御都合により幾月分、又は一年分と一時に纏めて頂くことも結構であります

○右何れでも御承諾下さればこちらよりお頂きに伺ひます

子と孫もない寄る邊なき老人に御同情願ひます

○愛らしき坊やの時もありました

○家のため國のため働いた時もありました

○父となり母となつた時もありました

○祝ふべき長壽を保ちながら

今は不仕合せの爲めに寄る邊なき身上となつてゐる人達を。

○基本金に付御願

本院創立後日尙淺く且つ財界永年の不況の爲め辛うじて経営中にて、まだ／＼財政の基礎も確立するに至らず爲めに今後の経営上に於て實に心細い次第であります、就ては當初よりの目的凡そ拾

萬圓を限度として基本金を募集したいのが懸念の念願であります。

そして基礎の確立経営上の安定を得るに従ひ諸般の設備も完成し以つて本院の大使命を全ふせんことを期するのであります。大方各位深甚の御同情を賜はり念願の達成に援助せられんことを御願ひ致します。

○福岡佛心會々報

○、講演會開催 十一月二十八日午後七時より材木町安國寺に於て開催會員星華婦人會員其他多數
參會盛會裡に午後九時閉會講師並に講題は次の通りであつた。

駒澤大學教授 保坂玉泉先生 時局と禪

曹洞宗師家 大洞良雲先生 佛教の人生觀

○、參禪會開催 十二月八日午後七時より安國寺に於て向仙外師指導のもとに參禪會開催盛會なり
也。

○、會員異動

入會者 岩田幸美氏（三井銀行福岡支店長）小川倫右氏（福岡市會議員）

死亡者 三枝貢一郎氏、菊竹淳氏、伊勢田壽氏、山口菊次郎氏、石橋愛太郎氏、坂本つる子氏

竹若徳次郎氏

各位の御逝去に對し謹んで敬吊の意を表します。

○星華婦人會の行事

◎慰問日 毎月二十九日は晴雨に推らす市内曹洞宗各寺院の住職方や會の幹部を始め會員多數の慰問に與りますいで入院者一同此の日を待ちわびて居ります。

當日の行事 讀經、法話、慰問品菓子煙草等の贈與

◎養老院慈善托鉢 星華婦人會主催のもとに十月二十四日同二十五日の二日間に亘りて誦經の聲も嚴かに、安國寺、明光寺をはじめ曹洞宗九ヶ寺の方丈雲納方總動員の先達につれ隨喜の御婦人方百數十人甲斐々しい足ごしらへで市内を廻られました。頼りない憐れな老人たちのため燃立つお情けの托鉢艇々二三丁にも跨る行列は雄々しい極みでありましたが中には七十歳からの御老人も参加せられての御托鉢はまことに涙ぐましい次第で二日目にはお腰が痛く足取りも随分お疲れの方も見受けられ痛はしくも亦床しいことでありました。寄附金は寄附米其他と共に直に養老院に寄附されました。

其の日の點心茶菓子お供養芳名

- | | | | |
|-----|--------|----|--------|
| 藏本町 | 太田しな子殿 | 萬町 | 菊 饅頭店殿 |
| 新柳町 | 一丸のぶ子殿 | | |

○感

謝

◎福岡日日新聞、九州日報の兩新聞社は夙に福岡佛心會並に本院の事業に多大の同情を表せられるのみならず、常にその貴重なる紙面を割愛して、佛心會並に本院に關する各般の記事を掲載して多大の援助をお與へ下さつてゐます。

◎福岡市古濱町醫學博士三宅重徳氏並に須崎裏町醫師江口近次郎氏は本院事業に對し格別の御同情を寄せさせられ御繁務中にも拘らず收容者のため奉仕的に御治療を頂いてゐます。

◎市内南藥院山崎理髮館は毎月一回若くば二回休業日を利用來院され收容者のため無料にて理髮奉仕を頂いてゐます。

◎市内平尾金森新聞取次所よりは新聞取次開始以來引續き本院へ福岡日日新聞の御寄贈を頂いてゐます。

右各位の深厚なる御同情に對し厚く感謝致します。

○希望のかずかず

◎身寄りのない憐れな老人で知る邊々を頼寄りて世話を受け又は組合等で日々生活の救護はしてゐても一朝病氣にでも罹ると世話する方も世話を受ける人も大抵な苦痛でないので相當機關の救済によることは双方の幸福だと思ひます。御地方に右様な不幸の老人が在りますなら入院の出来る様に御盡力をお待ちしてゐます。又救護法による被救護者で適當の放護施設のないのに困つて居られる市町村もあるやうです。本院は不十分ながら一通りの設備はしてゐますのでこれを御利用下さいまして救護を御依頼になれば是又救護される人も救護する側も好都合だと思ふのであります。

◎養老院では外出することが出来ないかの様にいはれてゐますが、絶対に出さないのではありません。養老院收容の老人はすでに大概は耳が遠いとか、眼が薄いとか、そしてしよばくとして電車に乗るときは車掌の保護を受け自然は外の乗客にも御迷惑をかけ其の他自動車、自轉車等のため過ちのないやうにと思ひ、徒らな外出は許さないのに過ぎません、止むなき用事の外出は差支へないのであります。

◎養老院に入ること非常に不名譽に思つて日々の苦痛を忍ばれる人もある様ですが、何かの因縁で兄弟や子供に別れ唯獨り生残つてゐることは一つの運命なので、時と場合決して不名譽といふものではありません。

願くば相愛同情に基き貧しきを助け弱きを憐れみ出来る丈多くの憐れな人々へ本院の目的たる救済の手を伸さして頂く様御援助下さることをのぞみます、又各學校、處女會、主婦會等に於て各種見學のため旅行せられる場合敬老賑恤の觀念をも教養せられる一助として御參觀下さることを希望致します。

昭和十三年六月二十六日印刷
昭和十三年六月三十一日發行

福岡市大字平尾六百卅番地

財團法人 福岡養老院

電話五一八三七番
振替福岡一八三四九番

發行兼編輯人 主事 古野義雄

印刷人 福岡市渡邊通り四丁目 藤次郎

印刷所 福岡市渡邊通り四丁目 秀巧社印刷所

